

小児慢性疾患のトータルケアに関する研究 平成3年度総括研究報告書

主任研究者 加藤精彦

平成元年度より開始された“小児慢性疾患のトータルケアに関する研究”は、現在社会的にも高まりつつある各種慢性疾患の治療における包括的、総合的医療の重要性の認識に支えられて、今後の医療のあり方について、多くの成果と示唆を与えるものと考えられる。本年度は3年間の専門領域の基礎研究、臨床研究の中に、とくに長期治療・管理のトータルケア的観点からの指導計画、管理指針や日常生活のあり方について患児の全人格的な成長・発達を考えての生活環境の整備に関する諸方策についても検討して頂くことにした。

対象となる慢性疾患としては、川崎病、乳幼児の突然死、肝疾患、遺伝性疾患、慢性循環器疾患、アレルギー性疾患、内分泌疾患等々をとり挙げ、以下のごとき8班から構成された各分担研究者が、多くの研究協力者と共に3年間の研究成果をまとめたものである。

1) 川崎病に関する研究

分担研究者 川崎富作

2) 乳幼児の突然死に関する研究

分担研究者 坂上正道

3) 小児の肝疾患に関する研究

分担研究者 白木和夫

4) 遺伝性疾患を持つ小児の生活管理・指導に関する研究

分担研究者 松田一郎

5) 小児期の慢性循環器疾患に関する研究

分担研究者 小佐野 満

6) 小児期のアレルギー性疾患に関する研究

分担研究者 三河春樹

7) 小児期の慢性疾患の長期的・総合的生活管理のあり方に関する研究

分担研究者 加藤精彦

8) 小児期の慢性疾患の実態把握システム化に関する研究

分担研究者 北條博厚

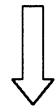
これらの研究成果の詳細については、夫々の項目の内容を御覧頂きたいが、慢性疾患の治療中或は経過観察中におけるトータルケアの大切さが痛感させられ、医師のみでなく看護婦、保健婦、心理療法士、栄養士、ソーシャルワーカー、教師に

加えて両親、家族、友人、社会福祉等に関係する多数の人々の指導や協力によって悩める心身を癒し、明日への希望と活力を患児に与え、健全な成長発育に近づける努力をするための具体的なプラン作成と実行が必要であり、幾つかの成果に裏付けられた指針が示されたことは大変よろこばしい。行政の協力と援助により、より良い新しいトータルケアによる支援の手が差し伸べられることを熱望する次第である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成3年度厚生省心身障害者研究

「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」

小児慢性疾患のトータルケアに関する研究平成3年度総括研究報告書

主任研究者 加藤精彦

平成元年度より開始された「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」は、現在社会的にも高まりつつある各種慢性疾患の治療における包括的、総合的医療の重要性の認識に支えられて、今後の医療のあり方について、多くの成果と示唆を与えるものと考えられる。本年度は3年間の専門領域の基礎研究、臨床研究の中に、とくに長期治療・管理のトータルケア的観点からの指導計画、管理指針や日常生活のあり方について患児の全人格的な成長・発達を考えての生活環境の整備に関する諸方策についても検討して頂くことにした。対象となる慢性疾患としては、川崎病、乳幼児の突然死、肝疾患、遺伝性疾患、慢性循環器疾患、アレルギー性疾患、内分泌疾患等々をとり挙げ、以下のごとき8班から構成された各分担研究者が、多くの研究協力者と共に3年間の研究成果をまとめたものである。

1)川崎病に関する研究

分担研究者 川崎富作

2)乳幼児の突然死に関する研究

分担研究者 坂上正道

3)小児の肝疾患に関する研究

分担研究者 白木和夫

4)遺伝性疾患を持つ小児の生活管理・指導に関する研究

分担研究者 松田一郎

5)小児期の慢性循環器疾患に関する研究

分担研究者 小佐野満

6)小児期のアレルギー性疾患に関する研究

分担研究者 三河春樹

7)小児期の慢性疾患の長期的・総合的生活管理のあり方に関する研究

分担研究者 加藤精彦

8)小児期の慢性疾患の実態把握システム化に関する研究

分担研究者 北條博厚

これらの研究成果の詳細については、夫々の項目の内容を御覧頂きたいが、慢性疾患の治療中或は経過観察中におけるトータルケアの大切さが痛感させられ、医師のみでなく看護婦、保健婦、心理療法士、栄養士、ソーシャルワーカー、教師に加えて両親、家族、友人、

社会福祉等に関係する多数の人々の指導や協力によって悩める心身を癒し、明日への希望と活力を患児に与え、健全な成長発育に近づける努力をするための具体的なプラン作成と実行が必要であり、幾つかの成果に裏付けられた指針が示されたことは大変よろこばしい。行政の協力と援助により、より良い新しいトータルケアによる支援の手が差し伸べられることを熱望する次第である。